



就職への取り組み

～就職内定率2年連続100%達成～

広島工業大学専門学校
キャリアサポートセンター長 山田彦一郎

はじめに

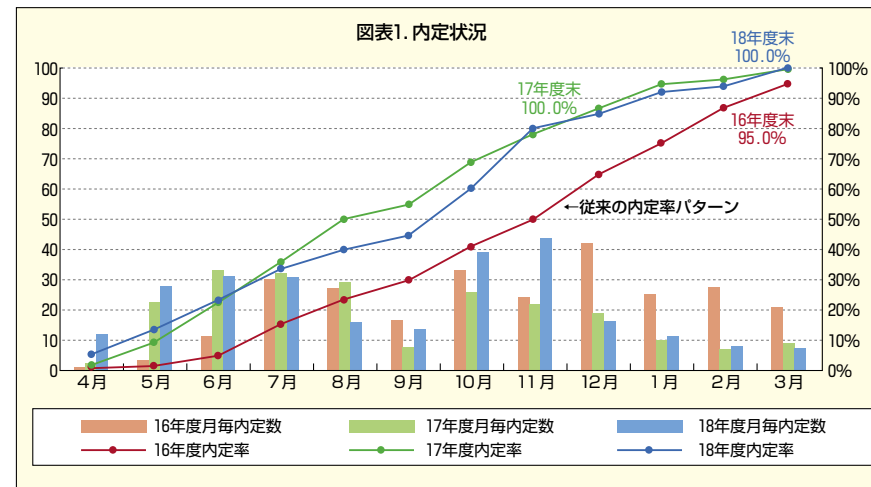
昨年度就職戦線は、景気拡大、戦後最大の「いざなぎ」越え、団塊世代の大量退職を迎える2007年問題への対応、製造業を中心とした技術の伝承や技術者の育成等とあいまって、企業の採用意欲が向上したことから、バブル期に次ぐ積極的な採用活動が展開されました。中国五県の労働局の調査でも、今春3月末時点の就職内定率の平均は、大学・短大がいずれも1996年以降で過去最高となり、初めて90%を突破したということです。

このような状況の中、本校は平成17年、18年度の2年連続して就職内定率100%を達成しました。この内定率の高さは、最後の最後まで学生のサポートをする本校の特徴の一つの表れだと思います。

何度も採用試験に失敗し、自信を無くしつつある学生を励まし、その学生に合った就職先を見つけ、再チャレンジさせて就職内定を掴み取るまでの体制ができていたことが結果として高い内定率に結びついていると思います。様々な課題はありますが就職状況の報告とあわせて取り組みの一端を紹介いたします。

就職支援システムの見直し

本校では2年前にキャリアサポートセンター（以下「センター」という）の人事異動によりメンバーが一刷新し、全く白紙の状態からの取り組みとなりました。従来の手法にとられることなく、過去のデータも含めて様々な角度から検討を行い、二つの目標を定め実施しました。まず一つは完全就職（内定率100%）を目指すことです。そ



のためには課題として年間の内定率推移曲線（図表1）の改革が必要とされました。以前から内定の時期が後期に集中しており、企業の求人早期化の実態にそぐわない面がでていました。そこでこの内定率推移ラインの見直しを図り上期内定率50%を目標としました。そのためには就職に関わる総てのスケジュールを前倒しする必要があります。

4月に実施していた就職ガイダンスは前年の秋に終了させ、個別面談をはじめ種々のスケジュールを全て繰り上げました。これにより新年度早々の取り組みが可能となりました。

二つ目の目標は「一人ひとりきめ細やかに支援する体制づくり」です。約300名の就職対象者であれば十分可能です。手書きの個人就職活動状況表もシステム化し、今では瞬時に学生の就職活動状況が把握できるようになりました。企業から送付される求人票も即時に学科別にセンターにファイルされ、閲覧の方法も変更しました。担任の先生方には企業の求人票内容

をメールで配信し、タイムリーに把握出来るようシステムを改善しています。また、本校は学生が自己開拓する比率の高い大学とは違い、どうしてもセンター主導型の就職斡旋に頼らざるを得ません。そのためには学生がいかに多くセンターを訪れて情報収集するかが鍵となります。その対応として学生のセンターへの来室状況チェックを実施し、動きの遅い学生には担当の先生方を介して来室を促し、適宜面接を実施しています。当然のことですが先生方の就職への意識の高いことにも大いに助けられています。

現在、これら総ての手法が完璧に機能しているとは言いきれませんが、こういった様々な取り組みが本校の「完全就職」の根幹になっていると思います。

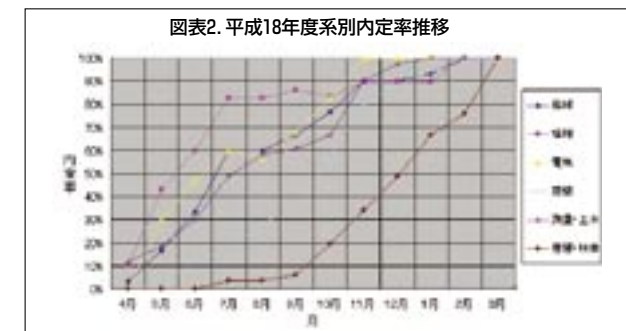
18年度就職状況の分析

過去3年間の就職内定率の月別推移は図表1となります。16年度の内定率推移グラフが従来の後期内定型のパターンです。平成17年、18年度は早

めの取り組みや、積極的な就職活動でグラフ曲線も各月平準化され、完全就職に結びついたことがグラフから読み取れます。

18年度の学科別内訳は図表2に示されている通り、内定時期にバラつきがあります。情報・機械・電気系が前期で建築・アート系が後期内定のパターンとなっており、企業の求人依頼のピークにもそれぞれ時期があり内定率はそれと同期していると言えます。

さて、求人企業の動向ですが、19年3月末現在の本校学生を対象とする求人企業数は581社、求人数で1278名でした。昨年同期と比較すると企業数で164社、求人数で約600名の増と



なっており就職希望者255名に対する求人倍率は4.17倍と前年比1.3ポイントの増加となりました。業種別（図表3）では建築関係が38%、サービス36%、製造16%、販売その他10%となっています。地区別（図表4）では広島県内への就職が77%とほとんどを占めています。

課題と今後の取り組み

景気の回復とともに、学生を取り巻く就職環境が売り手市場になった感

がありますが、未だ特定の業種に偏っており順風満帆とは言えません。また、厳選採用の厳しさは依然として変わらず、早期に内定をもらう学生もいれば、いつまでたっても就職先が決まらないという学生もいるというのが実態です。

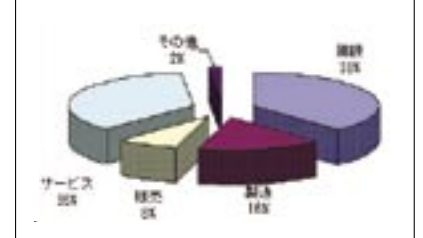
意中の企業から内定をもらえる学生は、高度資格を取得し、専門的な知識・技術のみならず、人間的な魅力も兼ね備えている等、いろいろな面から見てバランスが取れているという学生です。

また、派手な採用PRや、知名度の高い人気企業に目が向きがちですが、広島には地味ではあるが世界的に見てシェアの高い優良企業もたくさんあります。学生が仕事を人生においてどの

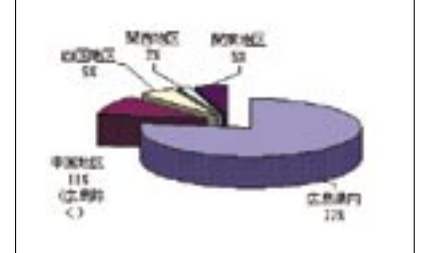
ように位置づけるかによって「良い会社」に巡り会えるかが決まると思います。企業規模の大小は関係ありません。地域に密着した堅実な企業が我々専門学校のテリトリーと考えています。そして、学生自

身がそこでどれだけ頑張れるかなのです。この部分を学生に対して十分に理解させることが出来ないもどかしさをいつも感じています。就業年限が4年間もある大学と違い、専門学校は全ての学生に対して「就業意欲」を高めるための絶対的な時間が不足しています。入学直後からのキャリア教育は行っていますが、「スキルを取得しながらいかに社会性を高めるか」というバランスをいかに取っていくかを考え、学生の置かれている状況も理解

図表3. 平成18年度内定業種別内訳



図表4. 平成18年度内定地区別内訳



しながら実践していく必要があると考えています。このことは、現在、社会問題となっている若年層の早期離職の解決策の一助にも繋がるものと思います。

本校ではインターンシップ等により、職場や現場での実践や経験を積む教育システムの更なる充実と、社会性を学び、人間力をつける「生き方講座」の抜本的な見直し等、様々な改善に取り組んでいますが、私は、通常の授業の中で、社会的経験の豊かな先生方に少しでも「働くことの意義」を学生に伝えて頂けたら、これほど効果的なOJTはないと思っています。

キャリアサポートセンターは、専門学校としての20年余りの歴史と、実績で培った企業との太いパイプ、さらには、学生一人ひとりの個性を大切に、徹底した個別指導で今年度も就職率100%を目指しています。